

外 国 語

1 教育課程の編成

(1) 基本的な考え方

ア 今回の学習指導要領の改訂において、外国語科の目標は、「外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う」こととされた。

イ 英語を履修させる場合には、これまでの選択必修制を改め、「コミュニケーション英語Ⅰ」を全ての生徒に履修させることとされた。

ウ 科目構成を変更し、4技能の総合的な育成を図るコミュニケーション科目、「話すこと」及び「書くこと」に関する技能を中心に論理的に表現する能力の育成を図る表現科目、会話する能力の向上を図る「英語会話」が創設された。

エ 中学校における学習との円滑な接続を図る科目として「コミュニケーション英語基礎」を新たに設けるとともに、言語の使用場面の例や言語の働きの例についても中学校との系統性を重視した改善が図られた。

オ 指導する語数を充実し、「コミュニケーション英語Ⅰ」、「コミュニケーション英語Ⅱ」及び「コミュニケーション英語Ⅲ」を全て履修した場合、高等学校で 1,800 語、中高で 3,000 語を指導することとされた。

文法事項については、言語活動と関連付けて指導すること、及び全ての事項を「コミュニケーション英語Ⅰ」で扱うことが明確にされた。

カ 生徒が英語に触れる機会を充実するとともに、授業を実際のコミュニケーションの場面とするため、授業は英語で行うことを基本とすることが明記された。

(2) 配慮すべき事項

必修科目である「コミュニケーション英語Ⅰ」については、2単位とすることができるが、標準単位数を減じる場合は、「コミュニケーション英語Ⅰ」の目標を実現できる範囲で行うこと。言い換えれば、「コミュニケーション英語Ⅰ」の内容に示されているように、「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」及び「書くこと」の4技能をバランスよく指導するとともに、学習指導要領に示された言語材料についても適切に扱うことに配慮する必要がある。このことは、生徒の実態から見て、標準単位数を減じても目標の実現や内容の習得が可能であることが前提となり、生徒の実態を踏まえずに標準単位数を減じることは厳に慎むこと。

(3) 特色ある教育課程の編成

ア 英語以外の外国語

英語以外の外国語については、従来と同様に、地域の実情や学校の実態に応じ、一層積極的に開設され弾力的な指導ができるようにするため、学習指導要領において特に規定されていない。なお、これらを扱う際には、英語に関する各科目の目標及び内容等に準ずること。(64ページ「トピック」を参照。)

イ 学校設定科目

従来と同様に、外国語科に関する学校設定科目については、学校において、地域、学校及び生徒の実態、学科の特色等に応じて設けることができる。学校設定科目を設ける場合、当該科目の名称、目標、内容、単位数等については、外国語科の目標に基づいていること及び内容の構成については、関係する各科目の内容との整合性を図ることに十分配慮する必要がある。

2 指導計画の作成と内容の取扱い

(1) 指導計画の作成

ア 高等学校における外国語科の科目においては、小学校における外国語活動の導入、中学校における外国語科の総授業時数の増加や4技能をバランスよく指導することとされたことなどを踏まえ、4技能の有機的な関連を図った言語活動の指導を重視する中で、コミュニケーション能力を総合的に育成することが重要である。

高等学校では、小学校や中学校で学習したことを基礎として、4技能を総合的に育成することを目指す「コミュニケーション英語Ⅰ」を高等学校において全ての生徒に必ず履修させる科目として設定しており、「コミュニケーション英語Ⅰ」では、中学校で学習した内容の一層の習熟を図りながら、科目の目標を達成することを目指している。

「コミュニケーション英語Ⅱ」は、「コミュニケーション英語Ⅰ」で育成した4技能を総合的に伸ばすことをねらいとして、「コミュニケーション英語Ⅰ」を履修した後に履修させることを原則としている。また、「コミュニケーション英語Ⅲ」は、原則として「コミュニケーション英語Ⅱ」を履修した後で、4技能を更に伸ばし、社会生活において活用できるようにすることをねらいとして、履修させることとしている。

イ 「コミュニケーション英語基礎」を履修させる場合、「コミュニケーション英語Ⅰ」は原則として「コミュニケーション英語基礎」を履修した後で履修させることとしているが、これは、「コミュニケーション英語基礎」が中学校における基礎的な学習内容を整理して指導するとともに、「コミュニケーション英語Ⅰ」における学習へ円滑に移行することをねらいとしているためである。そのため、「コミュニケーション英語基礎」を履修させる場合、例えば、1年次の前期で「コミュニケーション英語基礎」を履修させ、後期から「コミュニケーション英語Ⅰ」を履修させるなどといった教育課程上の工夫を、学校や生徒の実態に応じて行うことが大切である。

また、中学における学習内容の定着を図るために、「コミュニケーション英語Ⅰ」の標準単位数を増加して行うことも考えられるが、その際、1年次で単位数を増加できない場合には、2以上の連続する年次で履修させるなどの工夫を行うとともに、義務教育段階での学習内容の確実な定着を図るためにふさわしい教材の準備等を行うことが必要である。

(2) 内容の取扱い

各科目の指導に当たっては、「情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う」という目標の達成に向けて、生徒の能力・適性や興

味・関心に応じて指導方法や指導体制を工夫する必要があり、外国語に関する知識を増やすだけでなく、外国語を実際の場面で使うことを指導することが大切である。

そのため、例えば、ペア・ワークやグループ・ワークを取り入れ、生徒が実際に言語を使用する機会を多くしたり、視聴覚教材などを活用して現実感や臨場感を与えたり、情報通信ネットワークを活用して発展的な言語活動を実際に体験させたりするなど、様々な指導方法や指導体制の工夫をすることが大切である。

また、外国語に関する技能の習得のために必要となる、外国語を使用する機会は、生徒の日常生活において限られていることを踏まえ、生徒が実際に外国語を使用し、言語活動を行う機会を充実することが重要である。外国語指導助手（ALT）等のネイティブ・スピーカーの協力を得て行うチーム・ティーチングなどの授業においては、生徒のコミュニケーション能力の向上につながるような豊かな言語活動を展開することが求められ、同時に、生徒がネイティブ・スピーカーなどとできるだけ多く触れ合う機会を設けるようにすることが大切である。

3 言語活動を充実する学習指導の実践例

学習内容を定着させるには、生徒に多くの言語活動を経験させることが大切である。様々な言語活動を経験させることにより、繰り返し同じ語句や文構造、文法事項などに接することとなり、生徒自身が徐々に言語を内在化させていき、定着させることができる。

(1) 指導計画

科目名 コミュニケーション英語 I 単元名 Lesson 3 Save the Earth

(2) 単元の指導計画の例

単位 時間	学習活動(具体的な言語活動の例)	具体的評価規準との関連	評価方法など
1	○ Introduction・・・① ○ Pair-work ○ Concept mapping	Interest, willingness and a positive attitude Ability to express oneself in a foreign language	Observation Worksheet Worksheet
2	○ Reading (Pair, Chorus) ○ Pair-work・・・②	様々な言語活動を経験させるため、指導方法や指導体制を工夫し、普段の授業から取り入れる	Observation Worksheet
6	○ Speaking Test・・・③		
7	○ Reading (Pair, Chorus) ○ Group-work・・・④ ○ Mini Speech	4技能の総合的な指導を通して、これらの4技能を統合的に活用できるコミュニケーション能力を育成する Ability to express oneself in a foreign language	Observation Worksheet Peer assessment

① Introduction (導入における教師と生徒のインタラクション)

Point 聞く→話す

「事物に関する紹介や対話などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする」活動例

レッスン全体を通読する前に、生徒のスキーマを活性化させ、本単元に興味を持たせることを目的とする。聞かせる英文については、事前にALTなどの協力を得て、本文を短くまとめた説明とし、英語で聞かせる。また、本文の内容と関連する写真や図表などを提示することにより、理解を促す。

Teacher: In this lesson, we are going to learn how to save the earth. First of all, look at this picture.

Have you ever seen this sign before?

Student A: Yes, I often see it on plastic bottles. This sign means "Recycle."

Teacher: That's right! The word "Recycle" is one of the key words to save the Earth. For example, I put out plastic bottles and bins for recycling every other Wednesday. The word "Recycle" is also one of the 3R's. Do you know 3R? Please raise your hand if you know it. (*Many of the students raise their hands*) Now, you'll make pairs and talk about two more Rs with your partners in English for two minutes. If possible, you'll give examples of each R to your partner. (*Two minutes later*)

Student B: We learned about 3R when we were junior high school students. Our two Rs are "Reduce" and "Reuse." For example, we use recycled papers to "reduce" unnecessary papers.

② Pair-work (内容の理解を促す活動)

Point 話す→聞く→書く

「説明や物語などを読んで、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする」

活動例

本文の内容に関する英問英答をペアで行う。質問については、生徒の実態に応じて、教師が事前にワークシートに記載したり、あるいは、生徒に作成させたりする。

本文の一部

Today, plastics often replace more traditional materials such as wood, metal, glass, paper and rubber because they can be lighter, stronger and very durable. These properties often make plastics more economical to use than other materials. According to the newspaper, it is said that less than 5% of plastic in the world is actually recycled. That is, most of the plastic things are thrown away.

ワークシートの例

Ask these Questions to your partner	Write your partner's answer
What are the plastic properties?	<i>They are lighter, stronger and very durable.</i>
What percent of plastic is recycled?	<i>5 percent is recycled.</i>
<i>(Your own question)</i>	

③ Speaking Test (内容の理解を促す活動)

Point 書く→聞く→話す

ALTを活用したパフォーマンス・テストの例

生徒一人一人の学習状況を的確に把握するために、パフォーマンス・テストと定期テストを組み合わせるとともに、ALTの協力を得るなどして、最も評価しやすい場面で評価を行う。

1 テストのねらい (評価規準)

- (1) 積極的に言語活動に取り組むことができる。(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- (2) 自分の考えや気持ちなどを、聞き手に正しく伝えることができる。(表現の能力)

2 具体的な取組内容

- (1) Show&Tell の日程をあらかじめ生徒に連絡し、練習時間を確保する。
- (2) 単元の内容に関連する写真 10 枚程度を用意し、生徒にその中から 1 枚を選択させる。
- (3) テスト当日、ALT が英語による簡単な挨拶を行った後、生徒は Show&Tell を始める。
発表後、生徒は ALT 等から内容に関する 2 つの質問を受け、答える。

3 評価方法

ALTは、生徒が行う Show&Tell に対して、①態度 (Attitude)、②英語 (English)、③内容 (Content)、④内容に関する2つの質問への応答 (Q&A 1、2) をそれぞれ4段階、計20点満点で評価する。

4 テストの効果

- (1) 生徒は、自分の考えや気持ちなどを伝えることができるため、スピーキングテストに向けて意欲的に取り組み、評価を学習意欲につなげることができる。
- (2) 教師は、スピーキングテストを定期的実施することによって、生徒一人一人の学習状況を的確に把握することができる。

◆資料「スピーキングテスト (Show & Tell)」の評価シートの例

Scoring Sheet		Class: _____	No. _____	Name: _____
Show & Tell				
1. Attitude		2. English		
1	2	3	4	1
2	3	4	1	2
3	4	1	3	3
4	1	2	4	4
3. Content		4. Q&A 1		
1	2	3	4	1
2	3	4	1	2
3	4	1	3	3
4	1	2	4	4
5. Q&A 2		Total		
1	2	3	4	

④ Group-work (英語で表現する活動)

Point 読む→書く→話す

「聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合ったり意見の交換をしたりする」活動例

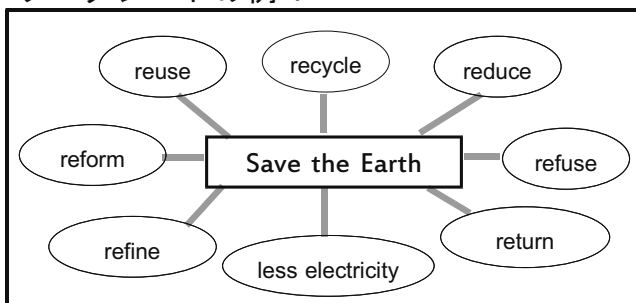
ワークシートなどを活用し、グループで話し合ったり意見交換をしながら、主題に関連する語をメモし、その後グループの考えをまとめ、発表を行う。

Teacher: We learned many ways to save the Earth from Lesson 3. We can use any way that we like best.

As for me, I'll wash the dishes with as little detergent as possible after meals. How about you?

ALT: I refuse plastic bags from stores. When I buy one or two things at the stores, I take my own bag with me to carry the things that I buy. We'd like you to think about what you can do to save the Earth.

ワークシートの例 1



ワークシートの例 2

What we can do to protect the Earth Group A

- reduce** unnecessary paper consumption
- reuse** plastic cups instead of paper cups
- recycle** collect bins and return them to shops
- less electricity** turn off lights in empty room

Group A: In my group, we wrote key words for saving the earth, and discussed what we should do.

First, we should reuse plastic cups instead of paper ones. For example, I went to the stadium to see the soccer game yesterday and I drank juice in a plastic cup. I think using the plastic cup is eco-friendly.

Second, we should reduce unnecessary paper consumption and use recycled paper.

Topic

高等学校における英語以外の外国語の教育の取組

国際化の進展に適切に対応するためには、近隣のアジア諸国の言語をはじめ、英語以外の様々な外国語の教育についても重視する必要があります。道内にも、生徒や地域の実態に応じた特色ある教育課程の編成を図る趣旨から、英語以外の多様な外国語を設定している高等学校があり、平成23年度現在、道立高等学校（中等教育学校を含む。）では、中国語13校、韓国語7校、ロシア語10校、フランス語2校、ドイツ語1校の、のべ33校において英語以外の外国語の授業が開設されています。

高等学校学習指導要領では、その他の外国語に関する科目について、「英語に関する各科目の目標及び内容等に準じて行うものとする」と定められています。

各学校においては、その他の外国語であっても、教科としての外国語の目標のもと、各科目の内容等を定めることが大切です。特に、コミュニケーション能力の育成に関しては、今回の改訂においても重要な柱になっており、十分な配慮が必要です。

英語に関する各科目において示されているコミュニケーション能力を育成するための言語活動や言語活動を効果的に行うための指導上の配慮事項、さらには「言語の使用場面の例」や「言語の働きの例」、「言語材料」などを十分に参考にして、適切な指導計画を作成し、それぞれの外国語における指導を効果的に行うことが大切です。

「基礎中国語」を開設しているA高校の学習指導計画表

平成23年度 年間指導計画

教科・科目	外国語・基礎中国語	単位数	2	学年組	3年 ○組
教科書・副教材等	しゃべっていいとも中国語	教科担任氏名	○○ ○○ 印		

期	月	単元・考査	指導内容	時間	ねらい
前 期	4	第1課 こんにちは 第2課 明日また	・母音、子音、声調の基礎を反復練習し定着させる。	4	・発音の基本事項の定着を図る。
	5	第3課 ありがとう 第4課 お久しぶり	・あいさつの言葉を発音し暗唱させる。	9	・あいさつの語彙と発音の定着を図る。
	6	第5課 お名前は 第6課 あなたは日本人ですか 中間考査	・自己紹介の文型を暗唱させ発表させる。 ・中国語で自己紹介の文を書かせる。	7	・自己紹介の文型を暗唱し中国語の表現の基礎を固める。
	7	第7課 郵便局に行く	・基本の動詞を覚え連動文について理解させる。	1 6	・中国語の基本語順を理解させる。
	8	第8課 コーラを飲みたい	・希望・願望の助動詞、存在・所有を表す動詞を使った会話文を覚え、ペアで自作の会話文を発表させる。	3	・文型の理解と実践的表現能力を身につけさせる。
	9	期末考査		1	
	9	第9課 道をたずねる	・方向、場所を表す語彙を覚え、身近な場所の説明文を書き発表させる。	4	・文型の理解と実践的表現能力を身につけさせる。
	10	第10課 ショッピングをする	・お金の言い方、日常生活の動作を表す語彙を暗唱させる。	8	・数の言い方を覚え表現活動の楽しさを理解させる。
後 期	11	第11課 おしゃべりをする	・年月日、年齢の言い方を暗唱させ、会話練習をさせる。	8	・数の言い方を覚え表現活動の楽しさを理解させる。
	11	第12課 料理を注文する	・量詞を覚え、料理を注文する場面の会話を発表させる。	8	・語彙の学習を通じて中国の食文化を理解させる。
	12	第13課 サッカーの試合を見る 卒業考査	・時刻の言い方を覚えさせる。 ・既習事項をまとめ、まとめた自己紹介を発表させる。	5 1	・語彙の学習を通じて中国のスポーツ、時事の理解を図る。 ・語彙、文法の理解と発音の基本の定着を図る。